

羽田と都心より近く



国際化が進む羽田空港は都心とのアクセスの改善が課題だ

国際都市魅力高める

国交省 鉄道整備指針

国土交通省は7日、今後15年間の東京圏の鉄道整備の指針をまとめた。羽田と成田の両空港をむすぶ路線や羽田アクセス線を新設し、都心から羽田空港や成田空港に行きやすくする。つばエクスプレスの延伸などを含む24のプロジェクトについて必要性を認め、財源の確保といった課題を示した。国際都市としての魅力を高め、訪日客の増加につなげる。

優先度が高いとされた主なプロジェクト

- ▼都心直結線
(押上～新東京～泉岳寺)
都心部での大深度地下工事
- ▼羽田アクセス線(田町・大井町付近～羽田空港)
羽田と新宿、渋谷とのアクセス向上
- ▼新空港線
(矢口渡～大鳥居)
蒲田駅と京急蒲田駅を結ぶ
- ▼都心部・臨海地下鉄
(臨海部～銀座～東京)
検討熟度が低く構想段階
- ▼都心部・品川地下鉄
(白金高輪～品川)
リニア始発駅の品川の利便性向上
- ▼つばエクスプレス
(秋葉原～東京)
都心とのアクセス向上
- ▼有楽町線(豊洲～住吉)
京葉線や東西線の混雑緩和
- ▼大江戸線(光が丘～大泉学園町～東所沢)
費用負担の合意形成が必要
- ▼京葉線
(東京～三鷹～立川)
収支採算性に課題

国交省は、今後15年間の東京圏の鉄道整備の指針をまとめた。国交省は、今後15年間の東京圏の鉄道整備の指針をまとめた。国交省は、今後15年間の東京圏の鉄道整備の指針をまとめた。

国際化が進む羽田空港は都心とのアクセスの改善が課題だ。都心直結線は都心の地下にトンネルを掘り、京浜急行電鉄の泉岳寺駅と京成電鉄の押上駅をつな

要は高い水準で推移すると推計。国際競争力の強化や混雑緩和、まちづくりとの連携などを考慮して、個別のプロジェクトを評価した。競争力強化に向けては8つの事業をあげた。利用者数が増えている成田・羽田両空港と都心を結ぶ路線に力点を置いたのが特徴だ。アジアの主要国は空港と都市のアクセス強化に動いており、空港への行きやすさは国際都市の魅力に直結するためだ。

京急蒲田駅をつなぐ新空港線(蒲田線)は大田区などが提唱する。実現すれば新宿や渋谷、池袋などから羽田に行きやすくなる。大田区は「事業実現に向けて大きな後押しとなる」(松原忠義区長)と受け止めている。地域の成長のためのネットワーク拡充も掲げ、16の事業をあげた。大江戸線や京葉線の延伸に加えて、混雑がめだつ京王線や小田急線の複々線化も盛り込んだ。

研究大学院大学教授は「どのプロジェクトもどんどんやれという時代ではない。採算や需要などを精査して、慎重に見極めなければいけない」と話す。

1万円札 8年ぶり増

今年度製造 訪日客の利用多く

財務省は2016年度比17%増の12億3千万枚多く使っていることに加え、税と社会保障の共通番号(マイナンバー)で訪日外国人が現金を

お断り、「どうする消費増税」は休みませう。資産を把握されることに不安を抱える高齢者らの現金回帰が高まっているとみられる。一方、電子マネーの普及を受けて1円玉は約50分の1に減らす。